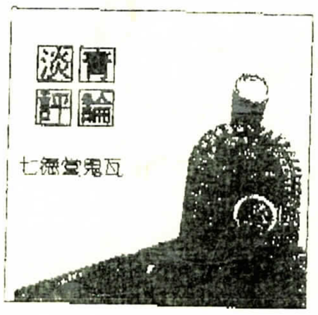
No.1279 2004. 1. 14

幸福的引退計画（ハッピーリタイヤメントプラン）



もうすぐ51歳である。一般企業であれば人事部や組合からハッピー・リタイヤメント・セミナーの案内が来てもおかしくない。いや、あれは55歳だったか。第二の職業人生をどうするのか。関連会社に出向転籍か、役職を外れてそのまま会社に残るか、人事部の斡旋で別会社に再就職するか、自分で探すか、あるいは引退するか。第二の人生の生活設計をどうするのか。年金、貯蓄、再就職した場合の給料、在職老齢年金等をどう組み合わせていくか。セミナーでは、これら、老後に備えて考慮すべき点をいくつかの選択肢を示しながら教えてくれる。夫婦で泊まりがけのセミナーを開催してくれるところもある。

本学ではどうもそういうことはなさそうである。研究者には引退はない、自分で再就職先（天下り先？）をみつけられないような教授はいない、十分な年金と資産があり老後に困ることはないはずだ、研究者は金のことなど考えてはならぬ等々、もっともらしい理由はいくつか思い浮かぶが、とにかくそうしたセミナーはないようである。

僕は労働調査を専門にしているが、丹念な調査ができなくなり知的粘着力が薄れ、よい報告書が書けなくなったら、職場を去ろうと思っている。その時がいつ来るのかは見当がつかない。明日かもしれないし、10年先でもだいじょうぶかもしれない。ちょっと困っているのは、定年前に職場を去り再就職しようと思っても、早期退職優遇制度がないために実行に移せないかもしれないことだ。定年が延長されればなおさらである。カネのことを言うなんてダメな奴だなどと思わないでほしい。40歳半ばで中途採用され、勤続年数も短い僕にとっては、自己都合退職で退職金が減るのは切実な問題である。

もし、この困難が解決され、職場を去ることになったら、僕は長崎に行きたい。長崎はいい。チャンポンのコシのない、ネチャネチャした麺がいい。五島のひじきがいい。甘いぜんざいは苦手だけれど卓袱料理がいい。坂の多いところがいい。散歩するだけで体脂肪率17%を維持できる。長崎弁を自由にあやつりたい。生活費も東京に比べれば安くすむだろう。孫が来ることを考えて平屋建ての少し大きな家に住もう。こうして僕の幸福的引退長崎移住大計画は着々と完成していく。残るは、一緒に行ってくれるだろう妻の説得だけである。だが、これがなかなかに難しい。

中村圭介（社会科学研究所）

（淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

◇広報室からのお知らせ

平成15年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。
URL: http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No.1279　2004年1月14日
東京大学広報委員会
〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393
e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html